



つながる

令和6年2月5日
 特別支援教室拠点校
 江戸川区立北小岩小学校
 校長 藤島 寿晴
 特別支援教室「つながる」
 巡回指導だより No.11

例年に比べ、今年は暖かい日が続いており、春の足音が聞こえてきそうな季節となりました。晴れが続くと、心も晴れやかになりますね。さらなる福を呼び寄せるためにも、豆をまくなどして、邪気を払いましょう。恵方巻を食べる場合、今年は「東北東」です。子供たちや保護者の皆様とともに、笑顔でより一層充実した日々を過ごせるよう努めてまいります。



あなたはどっちタイプ？～得意な学習スタイルが分かる！～

知能検査の目的は、その人のつまずきの原因や対策を知ることです。WISC 検査がよく知られていますが、つまずきの原因が分かりにくい場合は、ほかの検査も実施することで、原因をより深く知る手がかりになります。知能検査にはいくつか種類がありますが、その中の一つである「KABC-Ⅱ」を紹介します！

「KABC-Ⅱ」は認知力（子供がもっている力）と習得力（学習で身に付けた力）を別々に測定することができます。そのため、得意な学び方が分かり、検査結果をすぐに支援に生かすことができます。

道案内
A 曲がる角や道順を文字や音声で順番に把握する。
B 地図を広げて大まかな位置関係を見る。
家具の組み立て
A 説明書を読んで、言葉を手がかりに組み立てる。
B 図や写真、完成形を手がかりに組み立てる。
スケジュール管理
A 朝から順番に予定を並べる。
B 思いついた予定をリストにする。

（長所を生かした漢字の指導法）

継次処理タイプ

- 書き順を示しながら、各パーツを練習し、その後全体を練習する。



同時処理タイプ

- 全体からパーツに分け、漢字の意味と結びつける。漢字ドリルに載っている絵を活用し、形と意味を関連付ける。



- A：継次処理タイプ
（一つひとつの情報を順番に処理する）
- B：同時処理タイプ
（複数の情報を関連付け、全体的に処理する）



どの人も、継次処理と同時処理を場合によって使い分けていますが、得意な方の処理タイプがあります。子供たちが長所を生かし、生活や授業の中で「わかる」「できた」を増やすためにも子供自身の認知タイプを知ることは有効かもしれません。一つの工夫、一つの声かけで可能性は広がっていきます。「継次処理」「同時処理」の学び方や指導法に関する書籍もありますので、興味のある方はお声かけください！

自分を知るということ

子供の中には、「自分の良さ」や「できていること」が自分では気付きにくい子供がいます。また、自己の感情理解が苦手なために適切な対応ができず、周囲から「困った子」だと誤解されてしまう子供もいます。

そんな時、「今のあなたはこうだよ」「こんな気持ちなんだね」「〇〇ができているよ」と、声をかけてあげて欲しいと思います。「良さ」や「できていること」「気持ち」「変化」を言語化してあげることで、「今の自分を知る」ことにつながります。

特別支援教室での指導の目的として、「自己理解」はすべての子供に共通したものであると考えています。「自己理解」とは「自分の特性を理解する力」「自分の特性からくる課題を補おうとする力」です。「あ、今の自分はこうなんだ」「これはできるな」「これが苦手なんだよなあ」と、自分自身のことを理解することは、社会の中で生きやすくなる第一歩だと思っております。

長い目で、じっくりとその「自己理解」を身に付けさせてあげることが、周囲の大人、支援者にとって大事な意識であると思います。心地よい「ことばのシャワー」をかけてあげたいですね。

（平田）